

平成 30 年度博物館協議会議事録（要旨）

1 協議会概要

日 時：平成 30 年 9 月 13 日（木）10:00～12:00

場 所：北九州市立自然史・歴史博物館 会議室

出席者：伊澤会長、木村副会長、井上委員、岩松委員、緒方委員、近藤委員、染川委員、
富田委員、山本委員（三島委員欠席）、上田館長、石神副館長、福岡普及課長、
真鍋自然史課長、松井歴史課長ほか（博物館）

議 題： 1 平成 29 年度事業実績（博物館年報）について
2 平成 30 年度事業計画について

- 松井歴史課長より進行がなされた。
- 上田館長より挨拶がなされた。
- 伊澤会長、木村副会長よりそれぞれ挨拶がなされた。
- 各委員より自己紹介がなされた。
- 事務局（係長以上の博物館職員）の紹介がなされた。

2 議 事

- 伊澤会長の司会により議事が進められた。
- 博物館より議題 1 および議題 2 について説明がなされた。【 】は説明者

1 平成 29 年度事業実績（博物館年報）について

ア 概 要【福岡課長】

イ 特別展開催実績

- ・秋の特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」【守友学芸員】
- ・冬の特別展「アクア・キングダム」【大橋学芸員】
- ・春の特別展「Bones」【馬場係長】

ウ 開館 15 周年記念イベント【安永係長】

エ 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業【真鍋課長】

オ 東アジア友好博物館交流事業【日比野係長】

カ ジオパーク活動推進事業【馬場係長】

2 平成 30 年度事業計画について

ア 概 要【福岡課長】

なお博物館の組織の説明の中で、本年 4 月 1 日付で新規採用された日比野学芸員（自然史課・魚類担当）と中原学芸員（自然史課・鳥類担当）の紹介がなされた。

イ 特別展開催計画

- ・夏の特別展「へんてこモンスター」午後見学会を予定しており説明は省略
- ・秋の特別展「食のたび一箸と和食の文化史一」【上野学芸員】
- ・冬の特別展「世界遺産のまち 北九州と明治日本の産業革命遺産」【日比野係長】
- ・春の特別展「(仮) 獣は毛もの」【馬場係長】

ウ ジオパーク活動推進事業【馬場係長】

エ 東田ミュージアムパーク事業【松井課長】

オ その他（前年度の博物館協議会での意見に対する取り組み状況）【真鍋課長】

2 各委員による意見と質疑応答 ○委員 ●博物館

- 平成30年度冬の特別展「世界遺産のまち 北九州と「明治日本の産業革命遺産」」について。イギリス・ウェールズでは炭鉱で石炭生産が行われていたときに働いていた方々も健在な場合が少なくなく、施設や機械もまだ動く状態のものが展示されていた。歴史遺産を紹介する施設では動かないものはイメージが伝わりづらい。その辺をどのように工夫されるのか考えていただくとよいと思う。例えば当時実際に働いていた方々にお話しいただくなど人が介在すると理解しやすくなるのではないかと。春の特別展「獣は毛もの」展に関しては、革製品のワークショップなど活発な活動を行っている団体として、日本皮革産業連合会があるので相談してみてもどうか。
- 冬の特別展でも紹介する富岡製糸場では座繰糸機やフランス式繰糸機の実演が行われていた。機械がどう動くのか、実演が難しければ映像で紹介することや当時働いていた方々にお話をうかがう機会を設けるなど検討したい。
- 情報館の図書が古くなっているように思う。全国の博物館の刊行物など新着の雑誌について前面に出してはどうか。
- 子どもミュージアムに乳母車が置けるスペースやロッカーを確保した方がよい。授乳スペースを含めて動線をもっとわかりやすく明示し、施設の充実を図るべきである。
- 情報館が奥まったところにあり目立たない。今では買えない古い図書や資料を調べる際に便利なので、存在がわかるよう動線を明示するなどしてほしい。また貴重な図書も多いので、閲覧名簿を設置するなど図書の管理にも配慮するとよいのではないかと。
- 資料を見に来たり、それに合わせて展覧会を見たり、気軽に博物館に立ち寄れるようになるし、年間パスポートのような制度を作してほしい。
- 情報館は無料エリアで本来は多目的に利用できるはずだが、館内の動線が複雑で、情報館の位置がわかりづらく、必ずしも十分に利用されているとは言い難い。また情報館では交流員が監視を行っているが、巡回で空席時間も長く、図書の管理など十分とは言えない。
- 子どもミュージアムが中途半端な印象を受ける。
- 情報館は機器の老朽化などもあって、5年前のリニューアルの際に規模を縮小して、代わりに子どもミュージアムを設置した。週末にはボランティアが活動しているが、平日は不在の場合が多く十分とは言えない。
- 博物館入口でアンモナイトに関する最新の研究成果を紹介していたのは良いと思う。背景の表示サインや解説パネルを置くなどコーナーを充実させた方がよい。
- ホームページでは、特別展など文字情報は多いが、どのような内容なのか絵柄で把握しづらい。特別展チラシなどがPDFで入手できるようにすると良いと思う。
- 気軽に来館できるように、他館とのエリア連携も視野に入れた年間パスポートの検討を期待したい。
- 展覧会やイベントなどに中学生が子ども同士で来るとするのは難しい。教員への啓発、教員が来館して博物館の魅力を授業や学級活動の中で伝える機会を増やすのが現実的である。しかし学校現場では十分に知られてなく、教員研修会や校長会を通して全市に広げていくための啓発の必要性を感じる。教員の研修目的での来館を無料対応するなどの改善はとてありがたい。教員が足を運びやすくなるために、事前申請でなく職員証掲示での対応を検討してほしい。
- 5年前に「博物館利用の手引き」の改訂があったが、学習指導要領の改定などあって、博物館での学習の仕方も見直す時期にきているのではないかと。
- 「博物館利用の手引き」はそれだけでは授業で活用するのが難しい。学校にも冊子が残っていないのが現状ではないかと思う。来館が授業目的ではなく社会見学になって

- いる現状がある。手引きよりも、各単元に対応する博物館資料のデータベースがあると良い。教員も事前に目的や計画を立てやすく、生徒にも事前学習の指示ができる。
- 特別展に関しては、動物や昆虫の展覧会、今回のへんてこモンスター展は子どもたちの関心は高く来館していた。昨年秋の小笠原忠真展は社会科では教科書に出てこない人物だが社会科が好きな生徒は見に行ったようである。子ども向けの解説パネルはわかりやすくよかった。何度か見学した生徒もいたのではないか。昨年冬のアクア・キングダム展は大人向けの専門的な内容で、子どもたちには難しいと感じた。子どもたちには自分が住んでいる北九州市に誇りを持ってほしいので、特別展などについても地域との連携や関わりを重視した展示も考えてほしい。
 - 博物館について教育委員会所管の頃には、生涯学習部は良く知っているが、指導部は知らないといった状況であったが、市長部局に移ってから博物館の活動内容が学校現場に十分には伝わっていない。博物館の活動についても校長会などを通して積極的にPRしていきたいと考えている。
 - なるべく教員が気軽に来館して学べる仕組みを考えたい。データベースなどについては、何がどこまで可能か検討させていただきたい。
 - 今回の「へんてこモンスター」は学術的にもレベルの高い展覧会だが、親しみやすいタイトルをつけて子どもが来場しやすいようにハードルを下げる努力がなされ、また実際に見に来ると充実した内容であることが感じられる。そのようなプロモーションの工夫ができています。今後ともお願いしたい。
 - 来場者に高校生・大学生が少ない。大学生は他地域の出身者が多く、博物館の存在は知っているが行ったことがない人が圧倒的に多い。一度来場してみれば博物館の価値や魅力を評価してくれると思う。大学生も興味を持つような情報が得られる場や機会、行ってみようと思うインセンティブを与えるきっかけづくりを工夫してほしい。
 - 特別展を毎年4回、それぞれ2ヶ月ぐらいの期間開催しているが、予算をかけて準備した展覧会が、2ヶ月で終わって次に移ってしまうのはもったいないように思う。3回程度に回数を抑えて、それぞれの会期を伸ばしたら良いのではないか。学芸員の負担も減り、その分を調査研究に充てることができるのではないか。
 - 予算的にも4回続けるのは難しくなるかもしれないので、いろいろな状況を鑑みて、望ましい方向を検討したい。会期については、生体展示の場合、あまり長くは会期を確保できないこともある。その点もふまえて検討したい。
 - 東田ミュージアムパーク事業を行うなど他館とのつながりもできているので、展覧会の内容をパッケージにして他館に巡回してはどうか。昨年小笠原忠真展の報告書を見ると、去年の協議会の際に、担当者が他館の所蔵品を集めて準備していた姿が思い出される。無事終了したようで、報告書もできたことだし、他館に移動展の形で持っていくことにより、北九州市の博物館の研究力や展示力のすばらしさをいろいろな地域の方々に伝えることができるのではないか。特別展を年に4回開催する意味もさらに増すと思う。
 - 今回の「へんてこモンスター」展では資料をきちんと使い、生きている生き物も紹介して、各コーナーの主題の取り上げ方も一般の方々でも関心が持ちやすい、と同時に自分自身で意味付けしながら理解が深まるような構成になっていることはすばらしいと思う。小笠原忠真展については来場者こそ少なかったようだが、多くの資料を借用・集成したものであり、報告書は良い記録となっている。展覧会はそれぞれ企画により特徴が違うので、良かった点や時間・予算不足のため今回は実現できなかったが次回に工夫してつなげることができる点などを記録しておくの良いのではないか。新しく入った学芸員にも、博物館の特別展・企画展の普遍的な良さを伝えることができるの

ではないか。

- 東田ミュージアムパーク事業において、市立の博物館が短期間にこれほどの充実した内容を提案し採択されたことについては、博物館の底力・エネルギーは素晴らしいと思う。事業は仕事量が多く大変だが予算は潤沢に確保できる。業務を整理して、関係団体と上手に連携をとってほしい。
- 多言語化については、危機管理の分野では文法に関わらず「やさしく、シンプルで、わかりやすい日本語」で伝えよう、少ない数の単語で用件を伝えようという取り組みがなされている。展示解説パネルも「やさしく、シンプルで、わかりやすい日本語」で表現すれば、5ヶ国語の翻訳文を用意しなくても、利用者はスマートフォンで写真に撮り、翻訳サービスを使って母国語で読むことができる。日本人に対しても博物館の展示をわかりやすく伝えることにもつながる。多言語化の取り組みの核心だと思う。
- 最近解説パネルはシンプルなものにして、詳しく知りたい方々に対しては、展示室に別にワークシートなどを用意するケースが多い。様々な知識や関心に応じて、段階的・階層的に説明や情報を発信するように努めている。
- やさしい日本語とやさしい英語を使った展示解説パネルは、試験的に10箇所設置している。後の視察の際にぜひ観ていただきたい。
- 東田ミュージアムパーク事業について。今日スペースワールド駅で下車してきたが、樹林や草叢があって虫の声が聴こえてくるような駅周辺はなかなかない。ぜひ自然の力を借りて美術館・博物館を回遊できるようなプランを立ててほしい。例えば外国人観光客向けのガイドブックの表紙が京都の竹林であると、中国人観光客もこの竹林を目的に来訪する。桜の花を観て博物館も観るといったセットで来訪するという事例もある。自然力を活用したミュージアムパークを期待したいと思う。
- 博物館内部で検討したい。
- 松井歴史課長より会議の終了が宣言された。
- 閉会・休憩後、現在開催中の特別展「へんてこモンスター」を中心に、博物館の展示見学を行った。

(議事録要旨作成：中西義昌・日比野利信)